

[4] クラス毎の生活単元学習の実践

小学部では年間を通して、学部が同じテーマのもとに生活単元学習に取り組むことが多い。しかし、①3学期が1年間のまとめの時期である②クラスの実態や発達年齢に幅がある③研究テーマの主旨から、より個に寄り添える「クラス生単」が大事である。の3つの理由から、3学期は各クラス独自の単元を設定して、生活単元学習を展開することにした。

今年度も、同様の理由から3学期には「クラス生単」に取り組む予定である。尚、以下の実践は、昨年度のものである。

(1) クラスの実態 (発達段階の数値はMAを示す)

	学 年	発達段階	大切にしたいこと・支え	クラスの特徴
1組	1(2人) 2(4人)	2:1~3:4 自我の拡大~自我と自己矛盾の拡大期	・好きなこと、得意なことでアピール・失敗しない援助・自分の楽しみの追求	・少しは関わり合って遊べる・みたくて、つもりの活動が好き・興味が長続きしない・自己中心的
2組	3(3人) 4(2人)	1:9~3:7 自我の誕生~自制心の芽生え	・興味の拡がり ・先生や友だちとの共感 ・選んだことをほめて励ます	・人との関わりが苦手な児童あり・発達の幅が大きい・遊びの発展性に乏しい・指示待ちの傾向
3組	5(1人) 6(4人)	3:8~6:2 自制心の芽生え~自己客観視の芽生え	・イメージの世界の拡がり・我慢できる・ルールの理解・小さい子の世話 ・目標に立ち向かう	・少しは文字の読み書きができる・自分でやろうとする・友だちと活動を共有できる

(2) 各組の単元と単元設定の理由

	まちごっこ(1組)	ゆきまつり(2組)	カルタをつくろう(3組)
単元設定の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定し、自分のしたいことが思い切りできる。 ・大人世界がまねできる ・子どもの自由な発想に寄り添える ・先生や友だちと遊べ、楽しさを共有できる ・たっぷり遊べる ・一人ひとりが主人公になれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな活動をし、生活経験が拡大できる ・葛藤しながら自己選択できる ・思い切り遊べ、自己実現できる ・その子なりの楽しみ方を認めることができる ・友だちと関わり合って遊ぶ場がつけられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・思い出を振り返り、文字や絵で表現できる ・みんなでカルタをつくり上げる経験ができる ・一定のルールの基にゲームをすることができる ・カルタ大会の企画運営にあたることできる ・下級生を前に自分リーダーになる経験ができる
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・くじやさんやクイズやさんになったり、お店に行ったりして遊ぶ ・ゆうえんちの遊び道具を先生と一緒に作って遊ぶ ・パンを作ってパンやさんごっこをして遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・お正月の遊びや冬の遊びを先生や友だちと一緒にする ・遊び道具を作って遊ぶ ・ゆきまつりの準備をする(調理、製作活動) ・ゆきまつりを友だちと一緒に楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の思い出を振り返り、話し合う ・カルタの文字を書いたり絵を描いたりしながらカルタを作り、遊ぶ ・カルタ大会を計画し、下級生を招いて、会の運営をする



「パン、どうぞ!」



おまつりへようこそ



楽しかったカルタ大会

(3) 一人ひとりがいきいきと活動するための支援

単元の中で、一人ひとりが主体的にいきいきと活動するためには、個性や発達段階を考慮した教師の支援が大切である。ここでは、1組「まちごっこ」の単元の中でK男（発達年齢3：4）にとって効果的だった支援を具体的に述べてみたい。

	学 習 内 容 (ねらい)	支 援 の 工 夫
関 心 ・ 態 度	<ul style="list-style-type: none"> ・くじやさんになって遊んだり、遊園地をつくって遊びたいという気持ちをもつ。 ・自分のしたい店や行きたいコーナーを自分で選んで遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がオーバーな衣装を身につけ、楽しそうにくじやおじさんを演じて見せる。教室にダンボールを使った遊べるコーナーを魅力的に作る。 ・強制しないで、本児の好きな所へ行くことを認め教師もそこへ行って一緒に共感しながら遊ぶ。本児の発想や自主的な活動をほめ、寄り添って遊ぶ。
つ く る	<ul style="list-style-type: none"> ・先生と一緒に、ダンボールで遊園地を作る。(ダンボールや紙を切る、テープでつなぐ、好きな絵を描く) ・自分で工夫しながら作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったダンボールカッターを与え、切る活動の本児に任せる。・満足のいくまで活動の時間を与え、足りないようなら家庭へ持ち帰らせる。 ・本児の発想をほめ、できるように手助けをする。
あ そ ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・先生や友だちと関わって遊ぶ。 ・みだつもりの活動をしながら、みんなと一緒に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師も一緒にいきいきと遊びながら、本児の思いをくみ取り、友だちとの仲立ちをする。 ・売り手や買い手など、本児のしたい役を尊重し、役になって遊べるよう、本児に働きかける。
か く	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びコーナーの表示やピラなどの文字をなぞって書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の大きさの文字を、はっきりした線で書いておき、なぞりは本児に任せて自信を持たせる。

(4) クラス毎の生活単元学習の反省と評価

- ・どのクラスも児童の実態に合った楽しい活動内容であった。この時期に、クラスの実態に即した単元にじっくり取り組むことは、とても意義があった。
- ・単元の後半に、各クラスが他クラスの友だちを呼んで一緒に楽しむようにしたことで、招待した児童たちは、とても主体的にいきいきと活動し、満足感を得ることができた。
- ・子どもたちがより主体的に活動するためには、単元の学習内容を精選し、ゆったりとした計画を組むことが大切である。

(小坂)